令和三年度長野県塩尻志学館高等学校卒業証書授与式　【式　辞】（三月四日）

この冬は、ここのところ続いていた暖冬に対して気温・降雪量とも本格的な冬となりました。しかしながら太陽から注ぐ日は着実に力をましており、一時は雪原と化したグランドからも土の香り湧き立つようになりました。この地、桔梗ヶ原への春の到来は目前のようです

本日、ここに日頃から本校に対しまして格段のご支援・ご高配を頂いておりますご来賓の皆様のご臨席を賜り、令和三年度長野県塩尻志学館高等学校卒業証書授与式を挙行できますこと、誠に喜ばしく、衷心より御礼を申し上げます。

卒業式にあたり、教職員を代表して御祝いの言葉を申しあげます。

２１５名の卒業生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。

皆さんにとって、塩尻志学館高等学校での三年間の生活はどうだったでしょうか。

振り顧みますと、皆さんが１年生の１月に国内発の新型コロナウィルス感染患者が確認されて以来、感染拡大の波は６波に及び、２月末の段階で日本の感染者数の合計は５百万人を超えるとともに、約２万３千人の尊い命を奪いました。その中で、これまで当たり前にできていたことが感染防止のために制限されることになりました。「三密回避・人と人との接触機会を減らす」などの対策が必要になったことで、学校では様々な行事に制限が強いられ、皆さんは、不自由と感じた場面が多かったのではないでしょうか。特に高校生活の中で最も心に残る行事の一つである「修学旅行」が中止になったことは、残念に思います。　学校での集団感染が地域に与える影響は大きく、多く生徒の家族の命を危険にさらし、感染者が家族に出ることで長期間仕事を休まざるを得ない状況を招くので、仕方ないと諦めても、行き場所のない怒りといったマイナスの感情が心の中に広がる場面もあったと思います。このことは、学校に限らず社会の様々な場面に及び、人と人とのコミュニケーション奪うことでマイナスの感情はさらに増幅し、直接の原因とは言えないまでも、陰惨な事件のニュースが増えている印象を受けます。

そこで、卒業式にあたり、皆さんがこれからの人生を歩んでいくうえで、心に留めておいてもらいたいことをお話しします。それは、「人間は、感情をコントロールできる。」という考え方です。これは、『アドラー心理学』の考え方の一つで、１９世紀末にアドラー心理学を開いたオーストリアの精神科医であり心理学者であったアルフレッド・アドラーが「感情は車を動かすガソリンのようなものだ。感情に支配されるのではなく、利用すればいい。」という言葉を残しております。例えば、皆さんは「なんで、自分はこんなに劣っているんだろう。」と劣等感というマイナスの感情で自分の心に「悩みのタネ」をまいているイメージをもっていないでしょうか。それを「悩む」のではなく「困る」という感情に切り替えると、課題を解決する手立てを探し出すエネルギーに代えていくことできるとのことです。「情けないな」「最悪だな」と自分に声をかけ続けていると悩みは深まるばかりです。それを、建設的に「今　自分のできることはなんだろう。」

と問いかけることで、確実に困ったことに対処して自分を前進させていくことにつながります。前進は自信に変わります。アドラーは「劣等感を言い訳にして人生から逃げ出す弱虫は多い。しかし、劣等感をバネに偉業を成し遂げた者も数知れない。」とも述べております。その中で私は、課題を解決する力は皆さんがこの母校・塩尻志学館高校で３年間学んだ探求的な学びの中で鍛えられたことと信じます。是非、自信をもって学び舎を巣立っていって下さい。

続きまして、本日ご列席をいただきました保護者の皆様におかれましては、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。この三年間、本校の教育活動につきまして格別のご支援、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

これまで、平坦な道のりばかりではなかったと推察しますが、粘り強くお支えいただいたことと存じます。高校は社会への結節点という認識のもとクラス担任はじめ職員一同、生徒に寄り添いそれぞれのもてる力で指導・助言を繰り返してまいりました。その最終目的は、保護者の皆様の思いと同じ生徒の「自立」です。特に法改正により卒業生の皆さんは１９歳をもって成人となります。学生であろうと社会人になろうと「成人」として社会的責任を背負うことになります。これまで以上に「自立」が求められます。

ウミガラスという絶滅危惧種の鳥がおります。この鳥は、別名「オロロン鳥」と呼ばれ日本では北海道にのみ生息する珍しい鳥です。この親鳥が子を「自立」させるとき、100ｍを超える断崖絶壁に子を置き去りにするそうです。子はエサを取るためには断崖絶壁から海に向かって飛び立たねばならず、体重が重すぎたり羽が弱かったりすると、海面にたたきつけられて死んでしまうそうです。親鳥は、ただそれを見守るだけです。このように自然界の親から子の「自立」は大変過酷なものです。どうか保護者の皆様、高校卒業を機にお子様の「自立」について、勇気をもって支援していただけないでしょうか。自立は厳しさがつきもので、本人の努力が前提です。これまで親の庇護のもと不自由なくすごしてきたとすれば、またその関係が親子でそのまま続くとすれば、自立できない大人になってしまうでしょう。苦しみや困難をお子様が自分の力で克服させられるよう、これまで以上辛抱してお見守りいただければと思います。結びに、卒業生の皆さんがほぼ毎日取り組んだ「志学の時間」のサブタイトル「学ぶことは生きること」を胸に生涯学び続け、例え願いが打ちのめされても再び立ち上がって自分らしく生きることを続け、健康で社会に貢献していただきますことをお願いするとともに、ご来賓・保護者の皆様の今後の御健勝を祈念致しまして、式辞とします。

令和４年３月４日

長野県塩尻志学館高等学校　校長　宮川安司